

学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	大橋（堀）有喜衣 【論文博士】 【人間発達科学専攻 平成10年度生】 (人間発達科学専攻 平成14年3月単位修得退学)	<p>この論文は、高校就職指導に関して先行研究が生産してきたいわゆる「80年代型」仮説について、これを統計的および事例的研究を用いて実証的に検証したものである。検証結果は、高校就職指導が果たしている選抜・配分機能の教育社会学的研究の成果に関して、とくに次の二つの側面から、知見の見直しを要求している点で、大きな意義を有するものと評価された。すなわち①80年代までの日本の高校就職指導は、メリトクラシーが貫徹した「学校に委ねられた職業的選抜」によって特徴付けられるとされてきた点、②90年代以降、高卒労働市場の狭隘化によって、高校就職指導の日本の特質が崩れ、高卒者の職業への移行が急速に不安定なものとなったとされてきた点である。上記①については、80年代までの高校就職指導には多様性が見られ、また学校から職業への移行が従前指摘されてきたほどスムーズなものではなかったことが、本論文では明らかとなった。②については、大都市を対象とした事例研究に依拠した知見に過ぎず、大都市での高卒者の移行の不安定さが強調されてしまったことを明らかにしている。本論文は、仮説にとらわれることなく、全体を丹念に観察して知見を蓄積していくことの重要性をあらためて明示する労作であるとの評価で、審査委員の意見の一致を見た。</p> <p>審査委員会は4回開催された（平成26年11月21日、27年2月13日、5月11日、7月8日）。審査の過程では、複数の査読付論文を全体として一論文に構成し直す必要性、隣接領域の研究者をも念頭において論究を付加する必要性などが指摘され、適切に修正がなされたことを確認した。また外国語を含む学力についても、十分な水準にあることを確認した。</p> <p>以上から、本論文は、博士（社会科学）、Ph. D. in sociologyの学位論文として十分な水準に達しているものと判断し、最終試験に合格とした。</p>
論文題目	高校就職指導の教育社会学的研究 - 選抜・配分機能の類型化による「80年代型」仮説の再検討 -	
審査委員	(主査) 教授 耳塚 寛明	
	教授 平岡 公一	
	教授 浜野 隆	
	准教授 富士原 紀絵	
	教授 藤崎 宏子	
インターネット公表	<input type="radio"/> 学位論文の全文公表の可否（否） <input type="radio"/> 「否」の場合の理由 ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている ※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について	